

名古屋地学会第295回例会報告

津村善博

日時：2012年10月20日（土）10:00～12:30

場所：松阪市飯高町栗野および富永

参加者：5名（地元案内者含む）

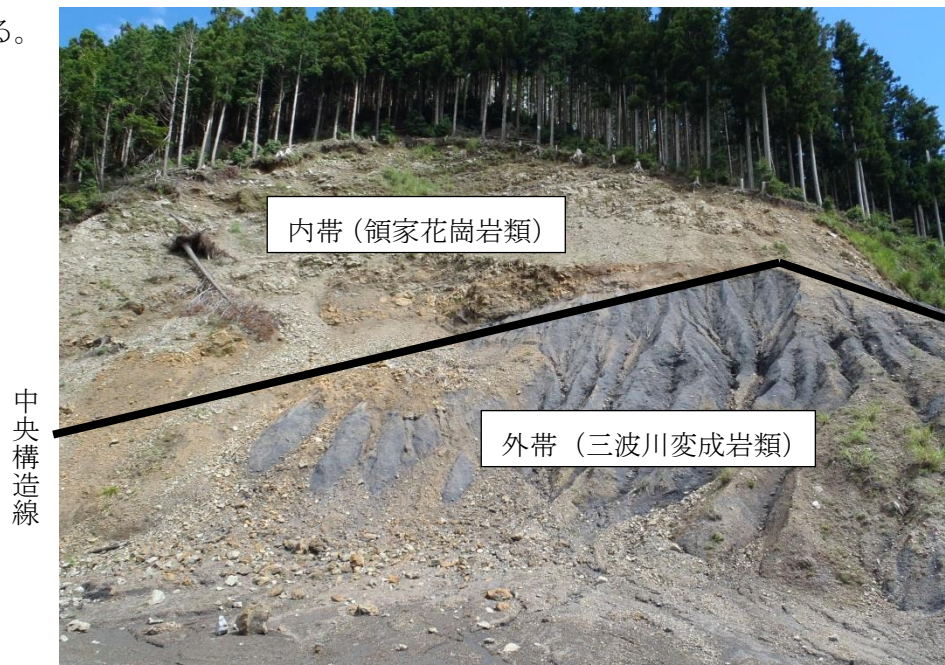
内容：栗野の中央構造線の観察と採集および富永の和泉層群の観察

概要：道の駅飯高に集合して、新たに見つかった栗野の中央構造線露頭へと車で移動した。

166号線を西進し、富永の集落から三峰山登山口へと林道を進んだ。栗野の路頭に着いたのは11時前であった。新たに見つかった露頭の概要は次の通りである。

- 露頭場所 松阪市飯高町栗野～田引の林道)
- 規模 幅約80m 高さ約20m
- 露頭の様子 上部の褐色部分 内帯の領家花崗岩類
下部の黒色部分 外帯の三波川変成岩類（一部粘土化している）
断層面は北に向かって急角度で潜り込んでいる。
- 月出の露頭とのちがい

三重県内では中央構造線はほぼ東西方向に走っている。栗野の露頭は中央構造線の走る方向（東西方向）に沿って見えている。月出の露頭は南北断面が見えている。



帰路の途中、中央構造線沿いに局所的に分布している和泉砂岩層を観察した。砂岩層は幾分変質していて、化石はまだ発見されていない。

12時30分過ぎに道の駅飯高に着き、そこで解散した。